

wish

前橋市手をつなぐ育成会報

ウィッシュ

ホームページアドレス <http://m-teotunagu.moo.jp/>メールアドレス info@m-teotunagu.moo.jp

携帯TEL 080-7744-4300



○発行所／前橋市手をつなぐ育成会 前橋市東上野町 459-1 前橋市立前橋特別支援学校内 ○発行人／塩崎政江 ○印刷所／マルエー印刷

3年ぶりの福祉パレード

第49回中毛地区のA班福祉パレード記念集会在、令和4年9月15日(木)9:00~9:30に、前橋市役所正面玄関前で開催されました。

山本市長、小曾根市議会議員、吉川教育長始め、行政の関係部課長やたくさんの市議会議員や特別支援学校関係者、障害者福祉施設、作業所関係者、手をつなぐ育成会事務局員など、約60名の参加の下、「知的障害者福祉月間記念行事」として実施することができました。



最初に、保護者代表として大島佳織さんが、「少子化の時代ですが特別支援教育を受ける子どもは増えています。その卒業後の受け入れ先は、充分とは言えない現状です。この前橋市で自立して生活できるような社会の実現に向けて、さらなるご支援をお願いします。」とメッセージを伝えました。また障害者本人代表として、第二福祉作業所の南雲綾歌さんが、「いつまでも楽しく暮らせる前橋にしてください。」と伝えました。

福祉作業所で作成したソバ枕やドライフラワーなどの記念品を、「あかぎの響」の古澤勇太さんから市長へ、三山黎明会の小林桃子さんから市議会議員へ、「群大附属特別支援学校」の櫻井翔太さんから教育長へ渡しました。

市長、議長、教育長から、それぞれ励ましの言葉をいただき、参加した本人達は非常にうれしそうでした。

今年度は例年行っていたパレードの代わりに、市役所1階のスペースに障害者の作品や事業の説明などを展示しました。教育委員会生涯学習課の協力のおかげでたくさんの市民にご覧いただき、成果の大きい企画となりました。



コロナ禍の折、やむを得ず、本人や支援者の参加者数を制限しましたが、この記念集会の様子を動画に撮影し、当日の夕方にYouTubeで配信しました。1週間の公開期間で135回の再生があり、集会に参加されなかった方にもご覧いただくことが出来ました。

障害福祉課の全面的な協力のおかげで、福祉パレード本来の趣旨に則った行事となりました。ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

前橋市市制施行130周年記念式典表彰式 前橋市手をつなぐ育成会が受賞

令和4年11月6日、前橋市市制施行130周年記念式典が催され、本会が市政功労団体として表彰されました。





福祉パレード寄稿



福祉パレードを終えて

前橋市障害福祉課長 山口 和子

福祉パレードと言えば、多くの参加者が市役所前に集まり和気あいあいの中、市長・教育長・議長の激励の言葉に送り出され、にぎやかにパレードに出かけていく姿が思い浮かびます。そして、そこにはいつも参加者の輝く笑顔がありました。

ところがいわゆる「コロナ禍」となり、まるで霧の中を手探りで道を探すような戸惑いの日々が続き、その笑顔はマスク下に隠れるようになってしまいました。

この2年間、開催することができなかった福祉パレードですが、「今年は何とか実施したい」という実行委員会の強い気持ちから、パレードは無く、規模縮小とはなりましたが、集会という形で開催することができました。参加することができなかった方々等へ向けて集会の様子をYouTubeで配信するという、「前橋市手をつなぐ育成会」の皆様の素晴らしい試みに感服いたしました。また、私たち職員も微力ながらお手伝いという形で参加することができたことに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

霧が晴れ、爽やかな空気を胸いっぱい吸い込んだ「手をつなぐ育成会」の皆様が、輝く笑顔でパレードに出発する日の訪れを楽しみにしています。

中毛地区A班前橋集会での本人メッセージ朗読について

前橋市第二福祉作業所 所長 真下 泰

福祉パレード記念集会では関係者の皆様到大変お世話になりました。ありがとうございました。

今年の集会での本人メッセージの朗読を第二福祉作業所が担当させていただくことになり、作業所で朗読してくれる方を募集したところ、真っ先に手を挙げてくれた南雲彩歌さんに決定しました。

そこから南雲さんは、一か月間毎日、朝の会と帰りの会で利用者や職員の前で繰り返し練習することで、当初の自信の無さそうな声から、堂々と読み上げることができるようになりました。

当日の朝は、緊張していたようですが、本番では素晴らしい朗読をすることができました。当日の様子をYouTubeで作業所のみなさんと一緒に見て、利用者、職員から大きな拍手を貰い、嬉しそうな南雲さんでした。

また、中央集会では、南雲さんがオンラインで山本知事と会話をしました。「これからも私たちが安心して楽しく暮らせることができる前橋になったらいいな。」と話していたのが印象的でした。中央集会のスタッフの方によると、山本知事も南雲さんの話に感動しておられたようです。

今回、南雲さんが山本市長の前で、メッセージを朗読したことや、山本知事との会話をを行ったことは、これからの生活の中で、大きな自信につながったことと思います。関係者の皆様、大変ありがとうございました。

これからも、前橋市や群馬県が地域共生社会を実現できるように、支援者としても務めていきたいと思っています。



<福祉パレード実施報告及び反省会>

令和4年10月11日（火）に、前橋市総合福祉会館（オンライン併用）で行いました。

知的障害者を知っていただく行事として、無理なく啓発でき、また、作品展を同時開催したことや YouTube 配信したことが効果的であったことなどの意見が出されました。令和5年度は福祉施設の順番で、「こがね荘」が担当してくださることになりました。また、令和6年度の学校担当は「若葉高等学園」が担当してくださることになりました。

ゆうあいハイキング始まる



11月13日（日）令和4年度のゆうあいハイキングがスタートしました。曇り空でしたが寒くもなく、紅葉真っ盛りで、歩くには最適でした。7家族19名とスタッフ4名が参加しました。

午前のグリーンアドベンチャーでは、子ども達がとても元気で、大人の方がくたくたでした。途中、大きな朴の葉や山栗、どんぐりやモミジの葉などを拾いながら、秋を楽しむこともできました。お昼の後、特別支援学級・学校、障害者福祉施設などの紹介ビデオを観ました。「卒業後が不安なので、関心があります」と、あるお母さんが話していました。午後はいよいよリンゴ狩りです。木村農園にお世話になり、陽光、名月、秋映などいろいろな種類のリンゴを選んでリンゴ狩りをしました。

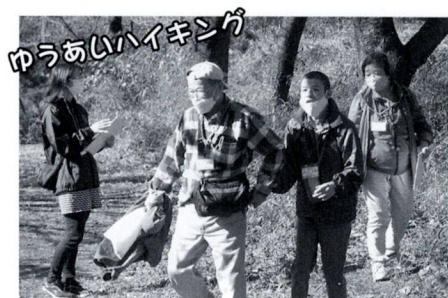
初めて参加した3家族も、とても楽しそうで「また、参加したいです」と言って帰りました。



11月27日（日）秋晴れのハイキング日和でした。6家族14名とスタッフ7名が参加しました。珍しいトチの実やヒマラヤスギのバラの花のような実もお土産にしました。どの参加者もととても元気で、途中迷いながらも見事ゴールできました。

午後の乗馬体験は、初めて乗る子もいれば、「これを楽しみに来た」という人もいて、一人一人に声援を送りながら、順番に乗馬体験をしました。スタッフも楽しみました。乗馬体験の後、馬の餌であるニンジンをとくさんあげて、大喜びでした。

初めて参加してくれたお母さんは、わが子が「こんなにハイテンションになって」と、とてもうれしそうに話していました。



この家族はスタートが一番最後でしたが、なんと一番にゴールしました！すごい！



初めて馬に乗りました。初めは「こわい」と言っていたけど、すぐに楽しくなって、2回も乗せてもらいました。「おうまさん、かわいいね！」



初めから「馬に乗りたい」とやる気になってはりきっていました。いい顔してますね！



令和5年1月22日(日)
10:00 ~ 12:30

「料理教室」

会 場：前橋市清里公民館（前橋市清里町）
参加費：500円 参加は障害のあるご本人と、付添者（保護者等）1名以上で一緒にご参加ください。
清里公民館とのコラボで開催します。簡単な料理づくりと、ミニクラフトを予定しています。



関東甲信越大会（長野大会）に参加して



500名の入所施設から、7年間で247名の入所者が地域移行（グループホーム94か所224名、その他アパートや生活寮等）をされました。今振り返ってこの数字を見せられても、驚異的としか言いようの無い実践が、平成14年～21年に長野県西駒郷という施設で行われ、全国的に大変注目を集めました。

今回の「第56回手をつなぐ育成会関東甲信越大会（長野大会）」（10月22日開催）では、当時その中心となって大活躍され、またそれだけでなくわが国の障害者福祉全般の推進に、中心的な役割を果たしてこられた山田優氏、福岡寿氏、小林彰氏の3人による対談が行われるとのことで、大変な期待感を持って参加してきました。

詳細な内容については、大会本部が公開している動画や資料（前橋市手をつなぐ育成会ホームページにリンクあり）をご覧ください。下記（令和5年1月17日開催）の本会勉強会で報告をさせていただきますので、本稿では率直な感想のみお伝えいたします。

3年ぶりの完全集會型の大会ではありましたが、感染対策もまだまだ留意しなければならない中、半日だけの開催となりました。必然的に各プログラムも限られた時間の中でしたが、それでも通常の式典と、過去・現在・未来をそれぞれ見つめるプログラムが組まれていて、盛りだくさんではありましたが、個人的な感想を言えばあまりにも時間が足りなくて、期待が大きかった分、少し物足りなさを感じてしまいました。

それでも、その驚くべき変革にあたって、当時の田中康夫知事を中心に大きな政治的決断があり、そこに至るまでの関係者の奮闘、施設利用保護者会との軋轢等、大変なご苦労の一端を感じることはできました。

あの驚くべき実践から十数年たち、「結局、あの地域移行の実践は、西駒郷だけで終わってしまってるんだよな～」という山田優氏の言葉が、今障害福祉の現場にいるものとして、心が痛む思いを感じました。また、小林彰氏より、自分たちは長野県のどの地域に住む障害者も、同じサービスを受けられるようにしよう、という思いで、仲間たちと連携して、長野県の障害福祉を推し進めてきた、といった発言がありました。実際に長野県では、西駒郷の取組にとどまらず、様々な法人が緊密に連携しながら、全国のモデルになるような取組みをいくつも行っています。その現実を考えたとき、根本には、こういった強い決意を持った方々の連携があったからこそ、障害福祉の先進地域として君臨し続けているのだとあらためて感動しました。

限られた時間内での大会ではありましたが、学ぶべきことは多く、強い刺激をいただくことができた大会でした。

（前川）

○今後の行事予定

☆参加希望の方は、右のQRコードから、メールでお申し込みいただくか、チラシの申込欄に必要事項を記載の上、FAXでお申し込みください。

※詳細は会員向け発送のチラシか、本会ホームページをご覧ください。



令和5年1月17日(火) 10:00～11:30

「地域で暮らし続けるために」（先進地域の取組みに学ぶ）

会 場：前橋市総合福祉会館（前橋市日吉町）第3会議室 ※オンライン併用開催
参加費：無料（会場での参加は先着20名）

「手をつなぐ育成会関東甲信越大会（長野大会）や、群馬県手をつなぐ育成会主催で行われた「親なきあと勉強会」の記録ビデオのダイジェスト版をご覧ください。先進地域の取組みを学ぶとともに、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なことを一緒に考えていきたいと思います。